社会と教育の架け橋 森と教育

社有林を活かした環境教育プログラム 王子の森・自然学校

王子ホールディングス株式会社
コーポレートガバナンス本部広報IR部
マネージャー 石井（いしい） 真樹子（まきこ）

王子ホールディングス株式会社は1873年創業の総合製紙メーカーです。森林を健全に育て、長年培った製紙技術を基に森林資源を活かした製品を創造し、社会に届けることで、新たな森林資源の可能性に挑んでいます。

▼150周年を迎える総合製紙メーカー王子ホールディングス

私たち王子ホールディングス株式会社は、近代日本資本主義の父とされる渋沢栄一の提唱により1873年に「抄紙（しょうし）会社」が設立されたことが始まりです。今年で創業150周年を迎えました。

「木を使う者は木を植える義務がある」との理念のもと、1930年代から森林の育成に取り組んできました。2022年5月には会社の存在意義（パーパス）として、「森林を健全に育て、その森林資源を活かした製品を創造し、社会に届けることで、希望あふれる地球の未来の実現に向け、時代を動かしていく」を策定しました。長年培ってきた紙づくりと森づくりのノウハウをもとに、再生可能な森林資源を活かした製品を生み出し、化石資源由来のプラスチック等の置き換えなどに取り組みながら、新たな森林資源の可能性に挑んでいます。

▼国内外に広がる王子の森

国内の社有林は、北海道から九州まで約650カ所にあり、総面積は約19万haです。海外でも植林事業を行い、現在約39万haにまで拡大しています。森林を保有する当初の目的は製紙原料の安定的な確保でした。しかし近年は、水源涵養、二酸化炭素の吸収・固定、土砂崩れの防止、生物多様性の保全など、森林の多面的な機能にも注目しています。

国内社有林の活用法の1つとして、私たちは2004年から小学4年生以上を対象とした自然体験型環境教育プログラム「王子の森・自然学校」を開催しています。

王子の森・自然学校の概要

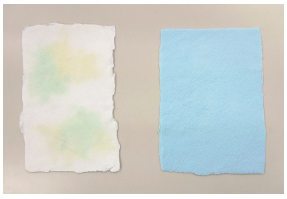
対象	・小学4年生～中学3年生（2004～2017年） ・小学4～6年生（2018年以降）		
参加人数	累計1,521人	開催時期	7月～8月
開催場所	2019年までは例年、国内グループ製造拠点2～5カ所にて開催。 ・北海道校（王子製紙苫小牧工場）　・日光校（王子マテリア日光工場） ・西丹沢校（神奈川県三保社有林） ・富士校（王子マテリア富士工場および王子エフテックス東海工場富士製造所） ・広島校（王子マテリア呉工場）　・宮崎校（王子製紙日南工場） ※2021年、2022年はオンライン開催。		
参加方法	公社）日本環境教育フォーラムHP（https://www.jeef.or.jp/activities/oji/）より応募。応募者多数の場合は抽選により当選者を決定。		

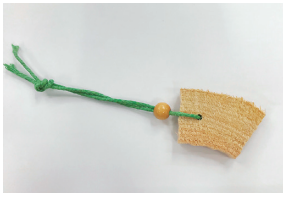
主催：王子ホールディングス株式会社　共催：公益社団法人日本環境教育フォーラム等

▼王子の森・自然学校の目的

04年の初回以来、東日本大震災が発生した11年、新型コロナウイルス感染症が蔓延した20年を除き、累計17回、毎年開催してきました。19年までは対面による現地開催、21年以降はオンラインで開催しています。

参加する子どもたちには、林内での自然観察や植樹、間伐といった森づくり体験と、製紙工場の見学を通じて、森林と産業、紙との関わりについて、理解を深めてほしいと考えています。「木を切るのは悪いことだ」と思う方々も少なくないと思いますが、私たちは木を植え、間伐（生育の悪い木を間引くこと）等を行いながら育てて伐採し、伐採後は再び植樹をしています。若木の方が老木より多くの二酸化炭素を吸収すること、伐採された木は太い幹は木材として使われ、細い枝や間伐された木は紙の原料になり、余すところなく活用していること等、森林について基本的な知識を伝えたいと思っています。





写真（上）：2019年の王子マテリア富士校での間伐体験。写真（下）：2022年のオンラインプログラムでの紙のリサイクル編・手すきはがき（左）と、森のリサイクル編・木製キーホルダー（右）。（写真提供：王子ホールディングス株式会社〈3点とも〉）

▼現地開催プログラム（2004～19年）

04年から19年までは、国内各地の製紙工場とその近隣の社有林で日帰り～2泊3日間のプログラムを展開しました。プログラム前半では、社有林内で、森林施業に従事する担当者から森づくりの説明を受け、一緒に植樹や間伐体験に取り組みます。加えて、自然観察、木の枝や葉っぱを使った木工クラフト、昼食を兼ねたカレーづくり等を行い、子どもたちは半日ほどかけて森林の中で過ごします。プログラム後半では、製紙工場に移動して工場の従業員に紙づくりの説明を受けながら、紙の製造工程を見学します。時間に余裕があれば、見学後は工場の原料を使った紙すき体験を行い、紙づくりの工程を復習しながら、子どもたちは手すきはがきづくりに取り組みます。

参加後の保護者アンケートからは「紙は工場でこうやってつくっているんだよ、と家族に教えてくれました。身の回りにある紙を大切に使おう、という意識が芽生えたみたいです」「木こりさんと一緒に木を伐ったよ！と話をしてくれました。森の中で過ごしたことがとても楽しかったそうです」という声が多く寄せられました。

▼オンラインプログラム（2021～22年）

21年からは1コマ60分間というオンライン形式に切り替えました。現地開催の醍醐味である、森林との触れ合いを通じた森づくりや工場見学による紙づくりをどのようにオンラインで子どもたちに伝えるのか。試行錯誤の末に2つのプログラムを展開することにしました。

1つ目は「森のリサイクル編」。プログラム冒頭では、子どもたちは家の中で木製のものを探します。机、鉛筆といった身近な木製品を目の前にしながら、紙もまた、木でできていることを学びます。次に、紙づくりに使われる木という視点から、クイズを交えて森づくりの仕組みや森とSDGsとの関係を紐解き、伐った木の有効活用や森のもつ様々な働きについて学びます。プログラム後半は間伐材を活用した木工クラフト体験です。事前配送されたクラフトキットを使って、木の香りや手触りを感じながら、木工クラフトに取り組みます。

2つ目は「紙のリサイクル編」。プログラム冒頭では、子どもたちは家の中で紙製品を探します。ティッシュペーパーやノート、段ボール…身近な紙製品を手に取りながら、紙が古紙と木からできていることを学びます。次に、クイズを交えながら紙のリサイクルの仕組みや紙づくりとSDGsの関係について学び、製紙工場の動画を視聴します。プログラム後半は紙すき体験です。紙すきセットを使って、動画で見た紙づくりの工程を復習しながら手すきはがきづくりに取り組みます。

参加後の保護者アンケートからは、「遠方のため、現地に行くことは難しいのですが、今回初めて参加し、全国で年齢の近いお友達と同じ時間を過ごすことができました」というオンラインの利点を評価する声が多い一方、「本当は社有林の体験や工場見学をしたかった」、「実際に森に行ってみたい」等の声も少なくありませんでした。さらに、「環境にもやさしく、次世代への教育活動にも力を入れている素晴らしい会社だな！と思いました」と、当社に対するイメージが変化したという声も複数寄せられました。

▼今後の展望

オンライン開催への切り替えにより、海外も含む遠方から多くの方にご参加いただくことができました。また、森林と産業、紙との関わりについての学びを通じて、森林資源を活かした事業を展開し、持続可能な社会へ貢献する当社への理解を深めていただくことで、当社のイメージ向上にもつながり、ブランド価値向上のアプローチという役割も果たすことができました。今後は社会情勢をふまえながら、より多くの子どもたちに本プログラムへ参加してもらえるよう、現地とオンラインの同時開催の可能性を探りたいと考えています。